

平成17年3月22日

各 位

会 社 名 京セラ株式会社
代表者名 取締役社長 西口 泰夫
(コード番号 6971 東証・大証 第1部)
問合せ先 財務部長 豊谷 晃彦
(TEL (075)604-3500)

新しい配当方針にもとづく平成17年3月期 期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成17年3月22日開催の取締役会において、新しい配当方針のもと平成17年3月期の1株当たりの期末配当予想について、下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 新しい配当方針

これまで当社は、安定配当を基本として配当金額を決定してまいりましたが、株主重視の姿勢をより明確にし、配当額の業績連動性を高めることといたしました。具体的には、連結配当性向 20～25%程度を目安とし、あわせて中長期の企業成長に必要な投資額などを考慮して、総合的な判断により配当金額を決定いたします。

2. 配当予想修正(増配)の理由

当期の連結業績は、本年1月27日に公表いたしましたとおり、売上高は前期比微増収となる見通しであります。利益につきましては、通信機器や光学精密機器事業が前期を下回り、前期比減益となる見通しであります。しかしながら、部品事業の業績は順調に拡大する見通しであり、また、前期には厚生年金基金の代行部分の返上及び子会社の厚生年金基金からの脱退に伴う一時的な利益として、約249億円が税引前当期純利益に含まれておりました。従いまして、前期のこれらの一時的な利益を除くと、当期の連結当期純利益は、実質的には前期比約80億円の増益となる見通しであります。

来期以降は、当期に実施した事業構造改革の効果が見込まれ、また部品事業と機器事業のそれぞれにおける「価値ある事業の多角化」戦略を推進することによりまして、業績向上が図れるものと考えております。

以上の状況及び新しい配当方針にもとづき、下記のとおり平成17年3月期の期末配当金につきまして増配を実施させていただきたく、平成17年6月下旬開催予定の定時株主総会に付議する予定であります。

3. 修正の内容

平成17年3月期(平成16年4月1日～平成17年3月31日) 1株当たり配当金

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
前回発表予想 (平成16年4月27日公表)	30円	30円	60円
今回修正予想	30円	50円	80円
(ご参考)平成16年3月期実績	30円	30円	60円

(注)中間配当(1株当たり30円)は実施済であります。

4. ご参考 通期連結業績予想

(単位:百万円)

	売上高	税引前当期純利益	当期純利益
平成17年3月期通期業績予想 (平成17年1月27日公表)	1,150,000	100,000	59,000
(ご参考)平成16年3月期通期実績	1,140,814	115,040	68,086

業績予想に関する注意事項

この配布資料に記載されている記述には、1934年米国証券取引所施行21E条に定義される「将来予想に関する記述」(forward-looking statements)が含まれています。これらの将来予想に関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて当社が予想を行い、所信を表明したものであります。これらの将来予想に関する記述は、既知及び未知のリスク、不確実な要因及びその他の要因を含んでいます。かかるリスク、不確実な要因及びその他の要因は以下のものを含みますが、これらに限られるものではありません。(1)当社が関連する市場の状況(特に、日本、米国、欧州及びアジア(中国を含む)の経済状況)。(2)円と当社の売上高の相当な部分を構成している通貨(特に、米ドル及びユーロ)との為替レート。(3)競争の激しいセラミック、半導体部品及び電子部品市場における当社の、革新的な製品を提供し、顧客の要求に沿った先進技術を投入する能力。(4)通信やパーソナルコンピュータを含む世界の情報技術市場の将来における成長または縮小の規模及び速度。(5)テロ行為、SARSなどの疫病の発生、その他当社の市場やサプライチェーンに混乱を与える可能性のある要素。かかるリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開または財務状況は、これらの将来予想に関する記述に明示または包含される将来の業績、事業活動、展開または財務状況と大きく異なる場合があります。当社は、この配布資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

以上